

持続的なまちづくりにおける 活動主体のクリエイティブ・コンフィデンスに関する研究

代表研究者 酒谷 粹将（関東学院大学建築・環境学部 准教授）

共同研究者 小村 遥香（関東学院大学大学院工学研究科建築学専攻 修士課程）

〔研究報告要旨〕

全国各地で行われているまちづくり活動において、その専門的知識や経験を持たない住民が主体となって活動に取り組むには様々な困難や課題が伴われることが予想される。そのような状況でも前向きに活動を展開するには、まちづくりを進める主体の強い心の持ち方や課題への取り組みの姿勢、いわばまちづくりを進める主体の強靱なマインドセットが必要となるだろう。そこで本研究では、デザインコンサルタント会社IDEO創設者のデイビットケリーらの提唱するクリエイティブ・コンフィデンスの概念を軸にまちづくりに関わる人のマインドセット形成の要因をあきらかにすること、クリエイティブ・コンフィデンスの形成に向けたまちづくり活動において持つべき姿勢や態度を提示することを研究の目的とする。具体的には「ヨコハマ市民まち普請事業」における15の整備団体を対象にその関係者らへ半構造化インタビューを行った。そしてインタビューデータをもとに質的研究の方法の一つであるM-GTAを用いて、クリエイティブ・コンフィデンスの形成過程に関わる諸概念の生成し、その体系化を試みた。

まずはまちづくりのスタートアップのステージにおいて、活動主体がまちづくりを始めるにあたって何がきっかけとなり、まず何から行動したのか、クリエイティブ・コンフィデンス形成の前段階としてそれを自覚するきっかけとなった要素を明らかにした。次に仲間を増やしながらクリエイティブ・コンフィデンスをより強化する、協働性・集団性とマインドセットの関係において地域の輪づくりが重要であることが明らかにし、その要素として「既存のネットワークを活用した仲間づくり」と「偶発性にまかせたネットワークの拡張」という2点について考察した。最後には大きく養われたクリエイティブ・コンフィデンスをより長く持続させる要素として「まちづくりや地域活動以外の活動への効果」や「活動の意義を発展させ新しい目的をつくる」といった観点を提示し、その内容について考察した。